



麻疹風疹混合（MR）２期 予防接種について

(Measles / Rubella vaccine)

麻疹（はしか）は、患者のせきやくしゃみで空気中にはき出されたウイルスでうつる大変感染力が強い病気です。発熱やカゼに似た症状から始まり、いったん下がった熱が再び高熱になるときに赤い発疹が出ます。赤ちゃんがかかると重症になり、肺炎や気管支炎、中耳炎、脳炎を併発することがあります。平成２０年は、市内で６００人以上の患者が出ました。数年前までは国内で年間１０数人が死亡しており、後遺症が残ることもあります。

風疹（三日ばしか）は、発熱と同時に発疹がでて、通常は３日間ほどで治る麻疹に似た病気です。軽症の場合もありますが、合併症に血小板減少性紫斑病があり、約６，０００人に１人は脳炎になることもあります。妊娠初期に感染すると、心臓や目、耳に障害をもつ「先天性風疹症候群児」が生まれる可能性があります。

○接種対象年齢

【１期】：生後１２か月から２４か月未満の者

※１歳誕生日の前日から２歳誕生日の前日までとなります。

（１２か月を過ぎたらなるべく早く受けましょう）

【２期】：小学校就学前の１年間にあたる者（年長児）

（入学１年前の４月１日から入学直前の３月３１日まで受けることができます）

※１期（１回目）の接種を受けた方のほとんどが抗体を獲得しますが、数％は抗体ができません。

２期（２回目）の接種を受けることで、残りの数％の方も抗体を獲得する場合があります。

●麻疹風疹混合（MR）ワクチンについて

平成１８（２００６）年度から、おもに麻疹風疹混合ワクチンを用い、２回接種（１期、２期）となりました。

ワクチン接種で免疫をつけることは、乳幼児から妊婦への風疹の感染を防ぐ意義もあります。

●麻疹風疹混合（MR）ワクチンによる副反応

接種後に見られる発熱や発疹といった症状は、接種後１３日以内に多く見られます。これらの症状は１～３日で治まります。ごくまれに脳炎など、重大な合併症が起こることがあります。

●麻疹か風疹にかかったことがある人

麻疹か風疹にかかった人も、MRワクチンの接種ができます。

◎予防接種を受けることができない人

- ①明らかな発熱(通常 37.5℃以上)をしている人
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③当該疾病に係る予防接種の成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④その他、医師が不適当な状態と判断した人

◎予防接種による健康被害救済制度

この予防接種による万が一の健康被害発生時には、予防接種法による給付を受けることができます。

異なるワクチンの接種間隔について



令和2年10月1日以降の接種より、「異なる種類の注射生ワクチン（BCG・MR・水痘など）
どうしの接種間隔は27日以上の間隔をあけること」以外の制限がなくなりました。

ただし、同一の種類のワクチンの接種間隔（例：ロタウイルスワクチンの1回目と2回目は27日以上あける）については変わりありませんので、ご注意ください。

この予防接種は防衛省からの交付金を使って実施しています。

2023 ver